

平成26年度 長野県諏訪清陵高等学校・附属中学校評価表 ～教育目標・取組・評価～

教育目標	取組	評価の観点	(参考数値)
<p>自分の頭で考えることの出来る生徒の育成をあらゆる機会を通して行う。 そのために、授業、HR活動、学友会活動、クラブ活動等のこれまでの在り方を見直し、研究・研修を行う。</p>	<p>①授業やテストにおいて、答えが一つではない発問を多くし、考え、発表し、討論するような機会を多く設ける。 ②HR活動において、自らの進路について自発的に調べ考える「場」を設定する。 ③SSH事業において、中高一貫教育における「学び方の学び」や融合型授業の研究・開発に取り組む。 ④学友会の諸機関と協議して、生徒に自ら考えさせる指導を行う。 ⑤クラブ活動における顧問の適切な指導及び活動の保障を行う。</p>	<p>①授業やテストにおいて、答えが一つではない発問を多く取り入れたか。 ②生徒を啓発し、自主的に取り組む「場」の設定や具体的な支援ができたか。 ③生徒の自然科学に対する興味・関心を高め、学習意欲が向上する取組であったか。 ④学友会へ効果的な指導助言ができたか。 ⑤クラブ活動の時間、場所を保障し適切な指導ができたか。</p>	<p>・考査等の設問分析 ・キャリア教育とかかわる個別面談の回数 ・生徒による授業評価</p>
<p>生徒それぞれの進路希望実現のため、学習指導、キャリア教育等の更なる充実を図る。</p>	<p>①合同HR、講演会等により進路意識の向上を図り、進路研究への支援を行う。 ②実力テストや校外模試の分析と事後指導を行う。 ③生徒・保護者、職員への進路情報の共有を図る。 ④指導の継続及び改善のため、進路係と各学年間の連携を図る。 ⑤社会的・職業的に自立した人間の育成を目指すキャリア教育を推進する。 ⑥学習係を中心にした毎日の家庭学習・土曜講座・テスト前後・学習合宿等の学習の質と量の充実を図る。</p>	<p>①生徒の進路意識を向上させ主体的な進路選択ができるような取組ができたか。 ②生徒の自己目標実現のための指導に十分取り組めたか。 ③実力テストや校外模試が有効に活用されたか。 ④進路情報が生徒・保護者、職員に適切に伝えられたか。 ⑤進路係、各学年間の連携が十分に図れたか。 ⑥生徒の学習習慣が確立し、学習時間が増加したか。</p>	<p>・大学合格状況 ・実力テスト及び模試の検討会回数 ・生徒意識調査 ・学習時間調査</p>
<p>生徒一人ひとりの心身の状態、発達段階に留意し、不登校、特別支援、SST等の新たな知見を踏まえ、スクールカウンセラーとの連携も深め、きめ細かな生徒指導を行う。</p>	<p>①生徒に寄り添い、心身の状態を深く洞察しつつ、成長を支援するための指導を行う。 ②学校生活における全般的なモラルの向上に取り組む。 ③狭い枠組みを抜け出し、地域や社会を見通すことのできる態度を育成する。 ④外部機関等との連携を図りながら、生徒の自主的・自立的な心身の健康管理を実施する。</p>	<p>①生徒の状況をつぶさに観察し、生徒の相談に十分に対応できたか。 ②生徒の自主性・自立性に寄与する指導ができたか。 ③地域社会の人々、特に周辺住民から応援されるような学校になっているか。 ④生徒自らが心身の状況を主体的に把握することができたか。</p>	<p>・生活実態調査</p>
<p>学校を内外に開き、保護者との連携も密にし、いじめや体罰のない学校をつくる。</p>	<p>①ウェブサイトや広報紙、学校案内ビデオ・パンフレット、中学校訪問、授業公開等を通して、本校の教育活動を広く伝える。 ②いじめを絶対に許さない校風を維持する。 ③生徒同士や、生徒と教職員とが共に互いの人格を尊重しあう学校づくりを行う。</p>	<p>①ウェブサイトを見やすいものにすることができたか。 ②本校の教育活動を保護者、中学校、地域住民等に十分に伝えられたか。 ③いじめの未然防止のために、機会をとらえての指導ができたか。 ④いじめの早期発見につながる相談体制が十分に機能しているか。 ⑤生徒・教職員ともに、人権意識の向上が図れたか。</p>	<p>・ウェブサイト更新回数 ・広報紙発行回数 ・授業公開来校者数 ・いじめに関するアンケート</p>